

茨城牧場における豚熱に対する防疫の取組

国内で26年ぶりに豚熱が発生してから3年が経過しました。

ワクチン接種により農場での発生は大きく減りましたが、残念ながら未だ終息には至っていません。

このため、令和3年12月7日付けで公表された国の「牛豚等疾病小委員会・拡大豚熱疫学調査チーム」による提言では、「ワクチンを接種した離乳豚群でも感染が確認されており、ワクチンのみで感染を防ぐことは困難。豚舎に出入りする際にウイルスを持ち込まない衛生対策が重要。」とされています。その他にも、農場対策として、農場周囲の消毒等、消毒液濃度及び交換頻度の重要性が指摘されています。

当場のある茨城県では、農場における発生はありませんが、豚熱陽性野生イノシシの確認地域が、北部山間部から急速に南下・拡大しています。最近では当場から直線距離で13km程の筑波山山麓で多数見つかっており、気の抜けない状況が続いています。



背景に見える筑波山では、令和3年以降、豚熱陽性野生イノシシが、多数見つかっています。

こうした中、当場では、豚熱の侵入を絶対に許さないため、これまでも職員一同が防疫対策に取り組んできたところですが、今回の提言を踏まえ、関係者の皆様の参考として、当場の取組を紹介します。

1 日常の衛生対策

(1) 衛生管理区域立入時のシャワーイン・シャワーアウト

病原体侵入防止のため、豚舎地区(衛生管理区域)に入る者(職員はもとより、機器の点検業者の方も)は、必ず入場前にシャワーを浴び、全身を洗髪・洗身します。

また、退場する際もシャワーを浴び、汚れや臭いを落とします。



豚舎に入る前にまずはシャワー浴し、全身を洗浄
(シャワー後はそのまま奥の豚舎エリアへ出るワンウェイ方式)



シャワー後は場内専用着を着用
(青色つなぎ+白長靴+赤線入りヘルメット)

(2) エリア専用の清潔な衣服・長靴の着用

エリアごとに長靴・作業着・ヘルメットの色を変えることで、確実に更衣・更靴が実施されるようにしています。作業着は、豚舎ごとに設置している洗濯・乾燥機で使用ごとに洗濯します。長靴も、洗浄・消毒により、常にきれいな状態を心がけています。

また、豚舎内では、使い捨て手袋若しくは専用の手袋を着用します。



豚舎内専用着
(白つなぎ+ミント長靴+白ヘルメット)



豚舎ごとに専用の洗濯・乾燥機を設置

(3) 衛生管理区域持込み資材の消毒

飼料(袋の外装)を始め衛生管理区域内で使用する機材は、一晩かけて煙霧消毒を行ってから豚舎地区に入れます。点検・工事用の機材、車両も同様に消毒してから持ち込みます。

以前はホルマリンくん蒸を行っていましたが、毒性を考慮し、現在は過酢酸等による煙霧消毒を行っています。また、弁当やスマホ等の個人が携帯するものも、紫外線消毒を行います。

(4) 衛生管理区域の衛生的な環境維持作業

豚舎は、毎日清掃・消毒をしますが、特に母豚・子豚を収容する豚舎は、オールアウト後に石灰乳を塗布して徹底的に消毒します。

また、疾病を媒介する小動物や病原体の侵入を防ぐため、豚舎周囲の定期的な石灰散布や草刈りも欠かせません。



豚を移動する際は専用ケージを使用



移動先の豚舎では、消毒を実施



衛生管理区域内道路は石灰を散布



定期的な草刈りの実施

(5) 定期的な自主検査

毎月の自主検査により、疾病(オーエスキー病及び PRRS(豚繁殖・呼吸障害症候群))をモニタリングしており、万が一豚に異常があった場合には、豚熱との類症鑑別の助けにもなります

(6) 野生鳥獣対策

場周囲へ二重フェンスを設置し、野生動物の侵入を防止しています。

また、豚舎窓の網戸や堆肥舎の防鳥ネットを設置し、鳥の侵入を防止しています。



防鳥ネットは自力で設置
前面は風で舞い上がらないように、
長く垂らし重しを配置

2 ワクチン接種と抗体確認

ワクチンは、適切な時期に接種することが重要です。

このため、当场では、獣医師職員が県知事認定獣医師の認定を受け、毎日の健康観察による異常の早期発見、適期のワクチン接種による免疫空白期間の短縮に努めています。

また、令和2年7月から外部機関による抗体検査を一部不定期に実施するとともに、3年9月から配布予定の種豚全頭に対して抗体検査を実施（抗体陽性豚のみ配布。4年1月からは場内で検査を実施予定。）することにより、当场の免疫獲得状況の把握と種豚の安全確保に努めています。

以上、当场における豚熱に対する防疫の取組を紹介しましたが、これらの取組は、他の伝染性疾病の防疫対策にもなっています。

豚熱を始めとする伝染性疾病は、「宿主」「病原体」「感染経路」の3つがそろったときに発生します。どれか1つでもなくせば、伝染性疾病は発生しませんが、完全になくすことはできません。それぞれを少しずつ減らすことが、発生リスクを下げることに繋がります。

このことを踏まえ、当场では、防疫対策の実施・点検・改善を繰り返すことにより、豚熱を始めとする伝染性疾病の侵入防止に努めています。



(以上)